

地道な信頼構築が パートナーとしての関係性につながる

特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻



代表理事
荒木 裕美さん
あらかき ひろみ

震災直後の2011年5月、震災により遊び場が無くなった、乳幼児を持つ母親の居場所がない、妊産婦にとっては不安がいっぱい、という現状を何とか支援しようと、妊婦・未就学児親子の居場所作りを始めました。代表の荒木裕美さん自身も、震災当時に子育て中であり、妊婦であったという状況と、仙台から石巻に嫁ぎ、馴染みのない土地で出産・子育てをする孤独感がありましたが、身近な仲間と環境が救ってくれたという経験をもとに活動は始まりました。

翌年の2012年4月に法人化し、子育てサロンの開設をはじめ、子育て情報誌の発行、妊産婦の相談対応など次々と展開。2015年には自前の拠点を新設し、これまでの実績から信頼を得て、石巻市の地域子育て支援拠点事業を受託するまでになっています。

助成金がなくなる4年後を常に見据えていた

法人化した初年度は、公民館や仮設集会所などで妊婦・未就学児のサロンを開催し、親子2,700人/年もの参加者を集め、情報が行き届きにくい未就園児の母親へは、育児の情報や震災後に変わった情報などを掲載したフリーペーパーを発行しました。これができるのは助成金の存在が大きかったと荒木代表は話します。

中でも、医療系の災害支援を行う団体「アメリカズ」との接点が、その後の展開に自分たちの力を高めてくれたと言います。被災地支援に取り組む団体が集まる東京での報告会に当事者として参加する中で刺激を受け、帰ってきてすぐに日本での仲介者に連絡をしたことが助成につながりました。助成金の多くが短期間の設定である中、より深い関わりを持つことで、最初半年であったものが次の期には1

年半の期間となり、次の体制や構想を仲間と共に落着いて考えることができたと言います。

親子の居場所づくり、震災ケア、子育てネットワーク作りなど、産前産後の切れ目ない支援を目指して、継続的なイベントやサロンを開催していく中で、東北大学大学院の研究者から、活動に参加している母親の気持ちの変化変容を客観的な数値として示す方法や、統計が取れるアンケート項目の立て方などのアドバイスを得て、日々の現場に様々な工夫が生まれました。

活動を始めた当初「震災助成金は4年でなくなる」「継続のためには専門性が必要」そんな声が周囲から聞こえてきたと荒木さんは言います。自らも当事者であり、必要性を感じて活動を開始していましたが、実働のための資金を単年度の助成金から得ている状況の中、4年後をどう描くか、その形を常に模索していました。実際、ベビースマイルも2015年をピークに寄付金や助成金が激減しています。



▲定期的に開催しているベビーマッサージの様子

目指した子育て支援拠点は、石巻市と協働で

震災後の活動功績が認められ、子育て等に関する市行政施策の外部委員をすることになった荒木さんは、石巻市が考えるこれからの子育て環境の在り方を知り、ベビースマイルが目指してきた地域子育て支援拠点の構想と重なりました。その後、市が子育て支援の拠点を外部委託すると聞き、「是非ともその役割を当法人に任せてもらいたい」という思いが生まれましたが、行政のNPOへの信頼はまだ低いと感じ、遂行できる、任せてもらえる信頼を獲得するための試行錯誤が始まりました。

まず、子育て支援の拠点運営のための経験や専門性を補うために、スタッフひとりひとりが地域で子育て支援者として活躍できるよう、荒木さんやスタッフは、外部のセミナーや研修に積極的に参加し、学ぶ機会を得ました。さらに、事業遂行のための組織基盤を整えるために財務面の専門家から必要な助言を得られるようにしました。

いよいよ市の委託事業の概要が見えてきたとき、「子育て支援拠点の外部委託は自前の場所を持っていることが条件」ということがわかり「覚悟を決めた」と荒木さんは言います。場所を作るにあたって、2千万円近い建物の整備を助成金で賄えたことは、これまでの実績を基にした「信頼獲得の努力の結果」と言えます。そうした努力が実り、2015年4月より石巻市から地域子育て支援拠点事業を受託し、マタニティ・子育てひろば『スマイル』を運営しています。初年度は、年間の来訪者が5千人を超え、4つの子育てサークルの立ち上げを支援するなど実績を積み上げ、受託当初は単年度での契約でしたが、3年目を迎えた今年度は3カ年の受託をすることになりました。

更に、2016年11月からは、妊娠・子育てに関する相談や情報提供をする石巻市子育て世代包括支援センター「いっしょ issyo」の運営も受託しています。



▲マタニティ・子育てひろば「スマイル」を2015年10月に移転新築

委託事業からさらなる展開へ

地域子育て支援拠点事業は委託事業ではありませんが、着実にNPOらしい取組やニーズに適したサービスを提供してきた実績が信頼につながったからこそその結果であり、協働事業と言えます。

一方、2016年度に委託事業として実施した「石巻市父子手帳」発行事業は、NPOらしく、作成にあたり、子育て中のパパ8人のほか、小児科医、産婦人科医、歯科医、行政などの専門委員による父子手帳検討委員会を立ち上げました。編集会議は盛り上がり、手帳が完成した後も、「子育てはまちづくりだ」と意気投合し、子育て中のパパが中心となり、地域とつながりながら子育てを楽しむことを目的に「パパ×まちづくりプロジェクト」を立ち上げました。ベビースマイルはその事務局を担い、子育てをママだけにしない取り組みを応援しています。

今では、「乳幼児といえばベビースマイル」と言ってもらえるようなカテゴリーの専門性を持つことができているが、一貫しているのは、妊婦から未就園児の親子に対して、親子の心身の健康と震災からの子育て環境の復興再築に寄与すること。行政や地域の団体と協働・連携をする中で、ユーザーのニーズに応える客観的な成果を積み上げていくことが、「任せてもらえる」という信用・信頼につながっています。

特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻

<問合せ先>
〒986-0861 石巻市蛇田字土和田 19-11
TEL▶0225-24-8304 FAX▶0225-98-5332
E-mail▶ishinomaki@forbabysmile.com
URL▶http://www.forbabysmile.com/